

事業所のご案内

●事業内容・サービス提供時間：
児童発達支援 14:00～16:00
放課後等デイサービス 16:00～18:00

●営業日：月曜日～金曜日（平日）

●定員：10名（児童発達、放課後等デイ合わせて）

●実施地域：姫路市、高砂市、加古川市、揖保郡
太子町、たつの市、佐用郡佐用町、宍粟市

●スタッフ：8名（保育士、作業療法士、言語聴
覚士、公認心理師、特別支援教育士SV）



■研究活動・情報発信

プレイジムは、日々の実践をたえず見直し、その効果を客観的に捉えるとともに、積極的に学会など学術的な場で実践・研究発表を行っています。また現場実践を整理、体系化し、その知見を他の事業所とも共有できるように書籍の発行や様々なワークショップなどを開催し情報発信に努めています。



ワークショップ案内・予定等は、右QRコードからご確認ください。
（プレイフルネス発達研究所へリンク）



2022.9.1

プレイジム

〒672-8089

兵庫県姫路市飾磨区英賀宮台51

TEL/FAX 079-227-4110

事業所番号 2854001225

HP <http://playgym.info>

Mail info@playgym.info



Facebook



Website



山陽電鉄「夢前川駅」徒歩12分
JR「英賀保駅」徒歩15分

株式会社アニマシオン

animacion.co.jp

Next Move

新たな”次の一手”を創造します

児童発達支援・放課後等デイサービス事業

プレイジムはインクルーシブ社会を理念で終わらせない



プレイジム®へようこそ

プレイジムは、発達サポートを必要とする子どもとご家族のために専門的なアプローチを提供する児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援事業所です。

プレイジムは、「苦手さがなくなること」「なにかができるようになること」のためだけではなく、専門的な視点で個々の子どもにとって、今、大切な発達課題や配慮すべき特性を捉え、子どもが自分自身の想いを実現していくための力を育むことを大切にしています。

このような支援においてもっとも効果的なプログラムは、子ども自身が興味を持ち自分でやり始めたことを出発点とした活動を用いることです。この子どもにとっての「意味ある活動」、すなわち遊びを通して、真の学びが成立し、結果として発達の促進・機能の向上が生じてくるのです。ゆえにプレイジムでは、目新しい教材やパッケージ化された教材をあまり使用しません。それぞれの子どもに本当に必要な活動を吟味し、療育の意図をもって提供することで、子どもたちの“本当の願い”を満たし“新しい自分をつくっていく”ことにつながるのです。

管理者・児童発達管理責任者 太田篤志

作業療法士・特別支援教育士SV
元姫路獨協大学・教授
日本感覚統合学会・理事
日本スヌーズレン協会・会長
日本自閉症スペクトラム学会・常任理事



学童保育・保育園、重症心身障害児施設での作業療法に従事した後、広島大学医学部・学部内講師、姫路獨協大学・教授などを歴任。現在、発達障害に関する研究・講演・執筆活動に携わりながら、自治体・教育委員会・特別支援学校での研修、保育園における特別支援保育のサポートなどにも取り組んでいます。

■ 感覚運動の支援で 学習機能の土台を育む

プレイジムは、感覚統合理論を活用した療育を実践しており、感覚運動遊びを取り入れています。この理論では、学業などの高度な能力を発揮するためには、その基礎をなす感覚運動の能力が十分に成熟しておく必要があるとされています。読み書きなどの学業は、一見、ジャングルジムのなどの感覚運動遊びと無関係のように見えますが、どちらも感覚情報を整理し、適切な行動・動作を生じさせていく脳の力という点では共通しています。つまり幼児期にみられる体の不器用さ(すぐに転ぶ、身のこなしが悪いなど)への適切な支援を行うことで育まれる脳の感覚情報処理の力が発達に伴って複雑となり、高度な学習の力へつながっていくのです。



■ 認知・コミュニケーション

ことばの発達は、子どもにとって意味のあるコミュニケーションのなかで育っていきます。遊びを通して、他者への関心の芽生えを育み一緒に楽しみを共有していくための支援しながら、本当の“ことば”を獲得できるように支援します。また子どもの特性に応じて言葉に限らない多様なコミュニケーションの方法(PECSなど)を活用し、自分の思いを伝えていくためのスキルを獲得できるように支援します。



認知発達に対しては、まず認知の土台となる機能(視覚、記憶、数概念)の成熟を図り、その上に基本的な学習スキル(読み書き計算)、さらに生活で必要となるライフスキルとしての認知機能を構築できるように支援します。

ディスレクシア(読み書き障害)に対する支援も実施しています。専門のアセスメントをもとに、苦手さの特性を特定し、音韻処理や語彙の獲得のための支援を実施します。

■ 子どもの行動理解

支援の第一歩は、子どもの理解です。子ども自身が、どのような想いや願いを持っているのか、なぜこのような行動をするのかなどを感覚特性、運動・認知・心理面などから分析し、子どもの本当の姿・思いを知ることから支援を始めます。周囲の大人の困り感に対して短絡的に対処するのではなく、まずは、子どもの困り感を共感的に捉え理解し、子ども中心の解決方法を模索していくことを大切にしています。

■ 困り感の軽減

感覚過敏による辛さ、認知特性による物事のわかりにくさ、不器用さによる手先動作の難しさなどに対して、支援グッズの活用や情報の伝え方の工夫(視覚化、構造化)、ICT機器(デジタル教科書、ノートアプリ等)の導入などによって、子どもの生活や学びが心地よさのなかで実現できるようにします。



■ アニマシオン 知的好奇心の広がりを

アニマシオンとは、特定の能力やスキルを高めるために行う教育的活動ではなく、支援者や子どもと一緒に、自分の好きな活動(遊びや趣味的活動)を通して、面白さ・楽しさ・歓びを追求・共有し、生き生きとした時間を過ごすことを大切に考える考え方です。プレイジムでは、子どもたちの知的好奇心を満たすアニマシオン活動の場を提供したいと考えています。



プレイジムは、児童福祉法に基づく児童発達支援・放課後等デイサービス事業の指定を受けています